

研修名 保育内容研修6(科学あそび)

平成27年10月16日(金) 13:30~16:00

講演 「子どもの気づきと探究心を育む保育と科学あそび」

講師 瀧川 光治 氏

1 子どもの好奇心と探究心の育ちと思考力の芽生えが育つ過程について

①まず6人ひとグループにわかれて、実技資料をもとに実験や簡単なおもちゃづくりをし、その中で感じたことや気づいたことを話し合いました。

ワーク1 虫眼鏡を使った実験

ワーク2 紙コプター

ワーク3 吹きゴマ

ワーク4 ストローの吹き矢

ワーク5 糸電話・針金

ワーク6 紙皿やじろべえ

②好奇心が現れているときの子どもの特徴

- ・じーっと見ている。
- ・繰り返している姿がある。
- ・喜んでそのことに取り組んでいる様子がみうけられる。

子どもの気づきに気づき、受け止め、共感することで、子どもの中に充実感や満足感が味わえ、意欲へとつながる。それが、新たな好奇心や探究心へとつながっていく。子どもをよく見て「先回りの環境構成」「後追いの援助」が保育者として大切だと話されていました。

2 感想

ワークを通して、実際に遊びながらワクワクしたり、どうなるのだろう？と疑問に感じたり、うまくいったときのうれしさを実体験させてもらったことで子どもの好奇心や思考力が芽生える過程を学ぶことができました。

子どもの好奇心や探究心が、行動へ、そして、新たな好奇心へと学びのサイクルがつながるよう、子どもの表情やつぶやきを大切に、子どもたちが充実感や満足感を味わえる保育ができるよう頑張っていきたいと思いました。

(記録 和東町立和東保育園 大西 春美)

